

イチゴ種子繁殖型品種「よつぼし」の本圃直接定植法における花芽分化促進

香西修志・松崎朝浩・植田舞世・中條里映・川本雄大・井口 工

香川県農業試験場研究報告 第72号 (2021年3月) 1-9

種子繁殖型イチゴは、セル成型苗を直接本圃に定植することで育苗の大幅な省力化が可能であるが、従来の栄養繁殖型品種の栽培方法と異なり、本圃で花芽分化をさせる必要がある。そこで、「よつぼし」をセル成型苗で本圃直接定植した際の花芽分化促進技術について検討したところ、次のような結果が得られた。

1. 24時間の長日処理を9月9日から16日間以上行うことで花芽分化促進効果が得られたが、頂花房と第一次腋花房の花房間葉数が無い株が多く発生した。処理効果が得られなかった区では無処理（自然日長）よりも開花が遅れた。
2. 本圃で8月下旬頃から窒素中断を行うことで花芽分化が促進された。
3. 原水よりECが0.1 dS/m高いEC0.5 dS/mの給液で管理を行うことにより、窒素中断を行った場合よりも株を大きく維持しながら、花芽分化を促進することが可能であった。

キーワード：窒素中断，窒素制限，長日処理，花芽分化，本圃直接定植法，セル成型苗，種子繁殖